

## 演劇「新平和」を観て

佐々木 真理

(Facebook より転載：2017.6.11)

長女の演劇を観に行きました。

広島アクターズラボから生まれた「五色劇場」 試演会「新平和」

ベトナムから月1で瞬間帰国(広島)して1年間勉強してきた彼女の成果を観にいったのです。

団員各自が2016年8月6日を広島で体験し、聞き、考えたことを表現したといった内容でした。

機動隊に守られた平和式典の中から、式場の外から、TVを見ている家から、被爆者の方から実際に聞いた話と今(2016.08.06)ここ(平和公園)に立っている自分から、様々な視点からこの日を考える。

TVで式典を流しながら家事をし、黙祷の時間になると止まって黙祷するのが私の8/6。そんな自分をこの演劇の中に入れてみる。

この視点はとても新鮮でしたし、興味深かった。

私は広島で生まれ育ち、今思えば私が子供の頃は平和教育が熱心だったと思う。

とても悲惨な映像や話をたくさん見聞きした。

戦争は悲惨で悲しく、決して繰り返してはいけないと思うのは当たり前。

でも、これは広島で当たり前なのだというのに最近気づいて啞然とした。他の地方では8/6は他の日と同じ日常なんだということにビックリした。8/6 8:15 皆が黙祷してるのだと思っていた。

式典の外側で繰り返し広げられている主義主張の混沌。悲しみに埋没してしまっている人。日常と非日常の間で揺れ動く人。思い出すのさえ嫌な人。機動隊、右翼左翼、マスコミ……。そんな視点から平和を考えることは、広島で生まれ育った私に新鮮だった。

原爆をテーマに表現することは、とても勇気がいったと思うし、難しかったと思う。

田口ランディさんが、ヒロシマについて書かれていたことを思い出す。(本の題名は忘れました) 「ここは祈りの場じゃない」と違和感を覚えたとのこと。田口さんがこの劇を観たらどう思っただろう？

そんなこと、あんなこと、を考えさせてくれたり思い起こさせてくれた劇でした。

原爆の子の像(だったっけ?)にしがみついて泣き続ける老婆の役、わが娘はうまいこと演じていました。演者、みなさん上手でした。

2017年の8月6日は、少し違った視点から過ごすことができるのではないかと思う。そして、かつてヨーヨーマがこっそり元安川(だったでしょうか?田口さんの本に書いてあった)の川辺で鎮魂のために演奏されたように、皆がそれぞれの思いで祈りをささげることのできる8月6日であるといいなと思います。

「五色劇場」というのは、原爆が落ちる前まで実在した芝居小屋の名前に由来しているそうです。

あ、そうそう、市電が停留所につくとき鐘の音がするのですが、原爆ドーム前の鐘の音だけ違うんだそうです。そんなことも気づかなかった(ドーム前で下りることもないので。徒歩ですから)。

長文失礼しました。